

Perforation in pediatric non-complicated appendicitis treated by antibiotics: the real incidence

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: English 出版者: 公開日: 2020-03-20 キーワード: 作成者: 三上, 敬文 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002469 |

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2223 号

Perforation in pediatric non-complicated appendicitis treated by antibiotics: the real incidence

小児非複雑性虫垂炎の抗生剤治療における穿孔の真の発生率

三上 敬文 (みかみ たかふみ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

現在、小児非複雑性虫垂炎の治療において、抗生剤治療による保存的治療後に待機的虫垂切除を行う方法が欧米でも広く用いられる。保存的治療中に虫垂が穿孔する率は 10%前後とされている。しかしながら、その穿孔が画像上受診時に認めていなかったことを改めて確認した報告はない。

順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院、順天堂大学医学部附属順天堂練馬病院、東京ベイ浦安市川医療センター、聖隷浜松病院、茨城県立こども病院、東部地域病院の 7 病院で 2011 年から 2018 年の間に治療された 16 歳未満の小児虫垂炎患児に関して、診療録を後方視的に調査した。

全 1357 例のうち、受診時に超音波または CT 検査で腫瘍形成性あるいは穿孔性虫垂炎と診断された 235 例は除外した。非複雑性虫垂炎 1122 例のうち、それぞれの施設の方針で緊急手術を行った症例 601 例は除外した。残る 521 例に対して抗生剤治療を行なった。抗生剤治療が奏功し、退院が可能だったのは 452 例(86.8%)で、そのうち 154 例に対して待機的虫垂切除を行なった。手術を行っていない 298 例の内訳はそれぞれの施設の方針により手術を行っていない症例や家族の拒否があった症例、また手術待機中の症例である。521 例のうち 69 例(13.2%)は抗生剤治療中に症状の増悪を認め、手術に至った症例である。手術時所見で虫垂の穿孔を認めたものは 12 例(2.30%)であった。

我々は手術時に穿孔を認めた症例に関して、受診時の超音波あるいは CT の画像検査を放射線画像診断の専門家により盲検的に再評価した。明らかになったのは、7 例(1.34%)もの症例が受診時にすでに穿孔性虫垂炎と診断し得た症例であったことである。すなわち残る 5 例(0.95%)が、小児非複雑性虫垂炎に対して抗生剤治療を行い、治療中に穿孔をきたした症例である。小児非複雑性虫垂炎に対する抗生剤治療において、虫垂の真の穿孔率は 1%にも満たないため、安全に行いえると言える。